

2017年度  
決算IR資料  
2018年5月10日



本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

# 内容

## I. 2017年度 連結決算概況

1. 収支の状況	P3
2. 財務の状況	P13
3. 資源セグメントの状況	P17

## II. 2018年度 連結業績予想（第11次中期3ヵ年計画の初年度）

1. 2017年度比較	P18
2. 上期・下期比較	P21
3. 一株当たり情報	P22
4. 感応度	P23
5. 主要製品の用途	P24
6. 主要製品の売上の推移	P25

### (参考資料)

1. 世界の亜鉛・鉛の需給推移	P27
2. 国内の亜鉛・鉛の需給推移	P28
3. メタルの価格と在庫の推移	P29
4. 亜鉛・鉛の鉱石輸入と国内需要	P30
5. 製錬事業の収益構造	P31
6. 製錬業界における当社の位置	P32

## I. 2017年度 連結決算概況

### 1. 収支の状況

#### (1)総括

##### ○2/23公表比較

2/23の業績修正公表以降、3月末に向け円高伸展と亜鉛・鉛相場急落で、低価法評価損が業績修正公表時の想定を13億円強上回ったことなどもあり、営業利益は9億円弱下ブレ131.0億円、経常利益は8億円強下ブレの131.6億円となりました。純利益は6億円強下ブレたものの、103.7億円と2006年度以来の過去最高益更新となりました。

##### ○前期比較

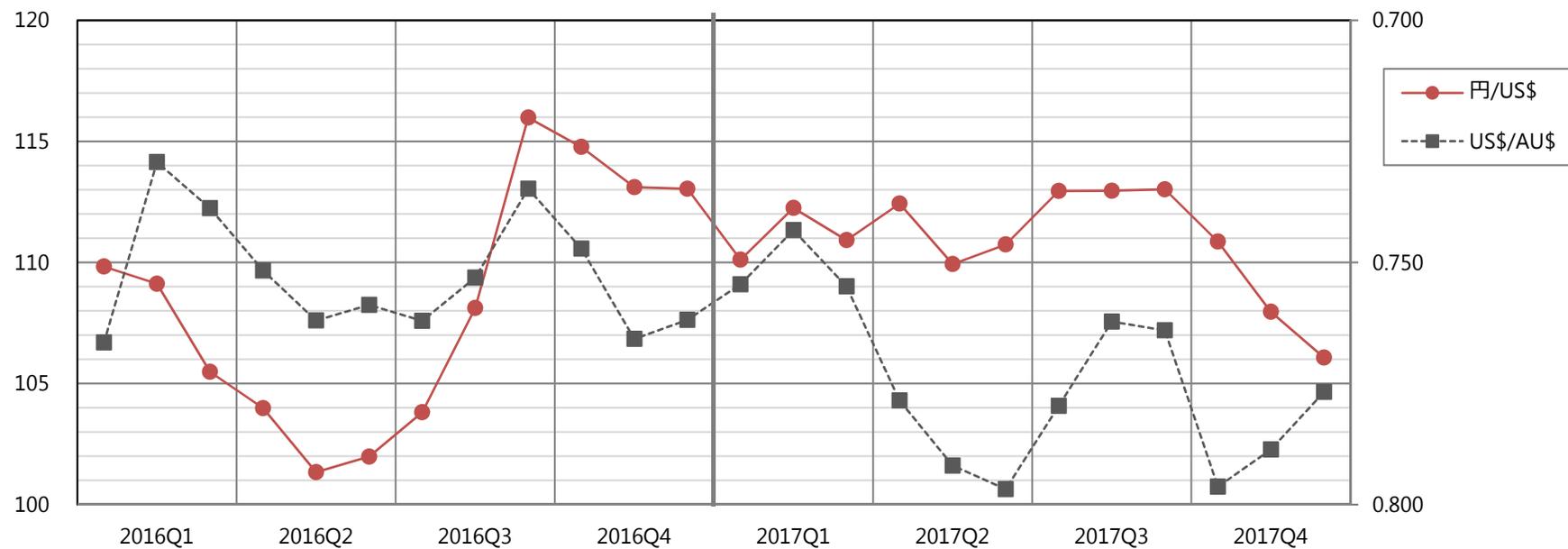
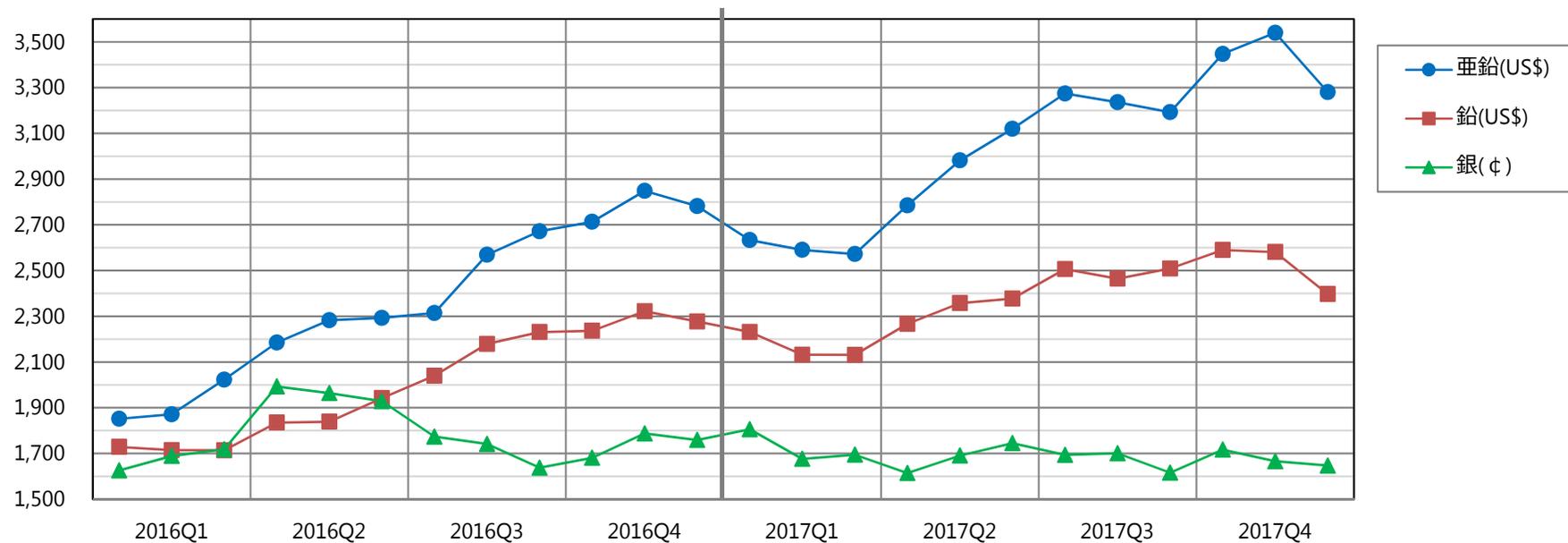
営業利益は3億円強、経常利益は6億円強の増益となりました。在庫評価益が前期37.1億円、当期15.6億円と21.5億円減少したことや、鉱石需給のひっ迫から原料鉱石の買鉱条件の悪化、エネルギーコスト高騰による加工費悪化等で製錬セグメントで50億円弱の減益となったものの、資源セグメントで、金属価格上昇や増産（CBH社のエンデバー鉱山で前期行っていた計画減産を当期に解除）の影響で53億円の増益、環境・リサイクルセグメントで亜鉛価格の高騰から6億円の増益となり、製錬セグメントの減益をカバーしました。純利益は16億円弱の増益と、増益幅が営業利益・経常利益よりも広がりました。これは、当期は利益に占める資源セグメントの割合が前期に比して増しましたが、これにより海外鉱山で過去の赤字の累積から受けられる税務メリットを当期により多く享受できたことによるものです。

(単位:億円)

	2016年度実績	2017/5/11 通期業績当初計画	2017/10/24 通期業績修正 (1回目)	2018/2/23 通期業績修正 (2回目)	2017年度実績
連結売上高	1,140	1,180	1,250	1,340	1,336
連結営業利益	127.7	74.5	105.0	140.0	131.0
連結経常利益	125.4	70.0	105.0	140.0	131.6
連結純利益	88.1	57.0	90.0	110.0	103.7

# 1. 収支の状況

## (2) 市況推移



# 1. 収支の状況

(3)第4Qの状況(市況・生産量)

		第3Q累計 (A)	第4Q (B)	2017年度実績 (A+B)	
市況	亜鉛(米\$/t)	2,932	3,422	3,054	
	鉛(米\$/t)	2,331	2,523	2,379	
	銀(米\$/toz)	16.9	16.8	16.9	
	円/米\$	111.7	108.3	110.9	
	米\$/豪\$	0.775	0.775	0.775	
製錬セグメント	亜鉛製品(千t)	72.9	27.7	100.7	
主要製品生産量	鉛製品(千t)	73.8	18.9	92.8	
	電気銀(t)	274	62	336	
資源セグメント CBH社関連	粗鉱処理量 (千t)	エンデバー	297	139	437
		ラスプ	521	182	703
		計	818	321	1,139
	亜鉛精鉱生産量 (千dmt)	エンデバー	32.8	15.1	47.9
		ラスプ	38.9	15.4	54.3
		計	71.7	30.5	102.2
	鉛精鉱生産量 (千dmt)	エンデバー	19.5	7.2	26.7
		ラスプ	19.3	6.9	26.2
		計	38.8	14.1	52.9

## 1. 収支の状況

(4)第4Qの状況(収支)

		第3Q累計 (A)	第4Q (B)	2017年度実績 (A+B)
売上高(億円)		1,016	320	1,336
営業利益(億円)	製錬	41.9	△8.6	33.3
	資源	53.1	20.4	73.5
	電子部材	4.6	1.0	5.6
	環境・リサイクル	14.4	5.7	20.1
	その他	5.3	3.2	8.5
	調整	△4.2	△5.7	△9.9
	計	115.0	16.0	131.0
経常利益(億円)		114.6	17.0	131.6
純利益(億円)		89.2	14.5	103.7
EBITDA(億円)		158.0	31.8	189.8

## 1. 収支の状況

(5)2018/2/23公表(通期)比較

		2018/2/23 公表ベース (A)	2017年度実績 (B)	差 (B)-(A)
売上高(億円)		1,340	1,336	△4
営業利益(億円)	製錬	45.0	33.3	△11.7
	資源	72.0	73.5	1.5
	電子部材	5.0	5.6	0.6
	環境・リサイクル	20.0	20.1	0.1
	その他	6.0	8.5	2.5
	調整	△8.0	△9.9	△1.9
	計	140.0	131.0	△9.0
経常利益(億円)		140.0	131.6	△8.4
純利益(億円)		110.0	103.7	△6.3
EBITDA(億円)		197.4	189.8	△7.6

# 1. 収支の状況

## (6)前期比較(市況・生産量)

		2016年度実績	2017年度実績	差(実額)	差(%)	
市況	亜鉛(米\$/t)	2,367	3,054	687	29	
	鉛(米\$/t)	2,005	2,379	374	19	
	銀(米\$/toz)	17.7	16.9	△0.8	△5	
	円/米\$	108.4	110.9	2.5	2	
	米\$/豪\$(1-12月)	0.743	0.775	0.032	4	
製錬セグメント 主要製品生産量	亜鉛製品(千t)	97.7	100.7	3.0	3	
	鉛製品(千t)	90.6	92.8	2.2	2	
	電気銀(t)	419	336	△83	△20	
資源セグメント CBH社関連(1-12月)	粗鉱処理量 (千t)	エンデバー	199	437	238	119
		ラスプ	630	703	73	12
		計	829	1,139	310	37
	亜鉛精鉱生産量 (千dmt)	エンデバー	22.4	47.9	25.5	114
		ラスプ	47.1	54.3	7.2	15
		計	69.5	102.2	32.7	47
	鉛精鉱生産量 (千dmt)	エンデバー	13.9	26.7	12.8	92
		ラスプ	27.0	26.2	△0.8	△3
		計	40.9	52.9	12.0	29

# 1. 収支の状況

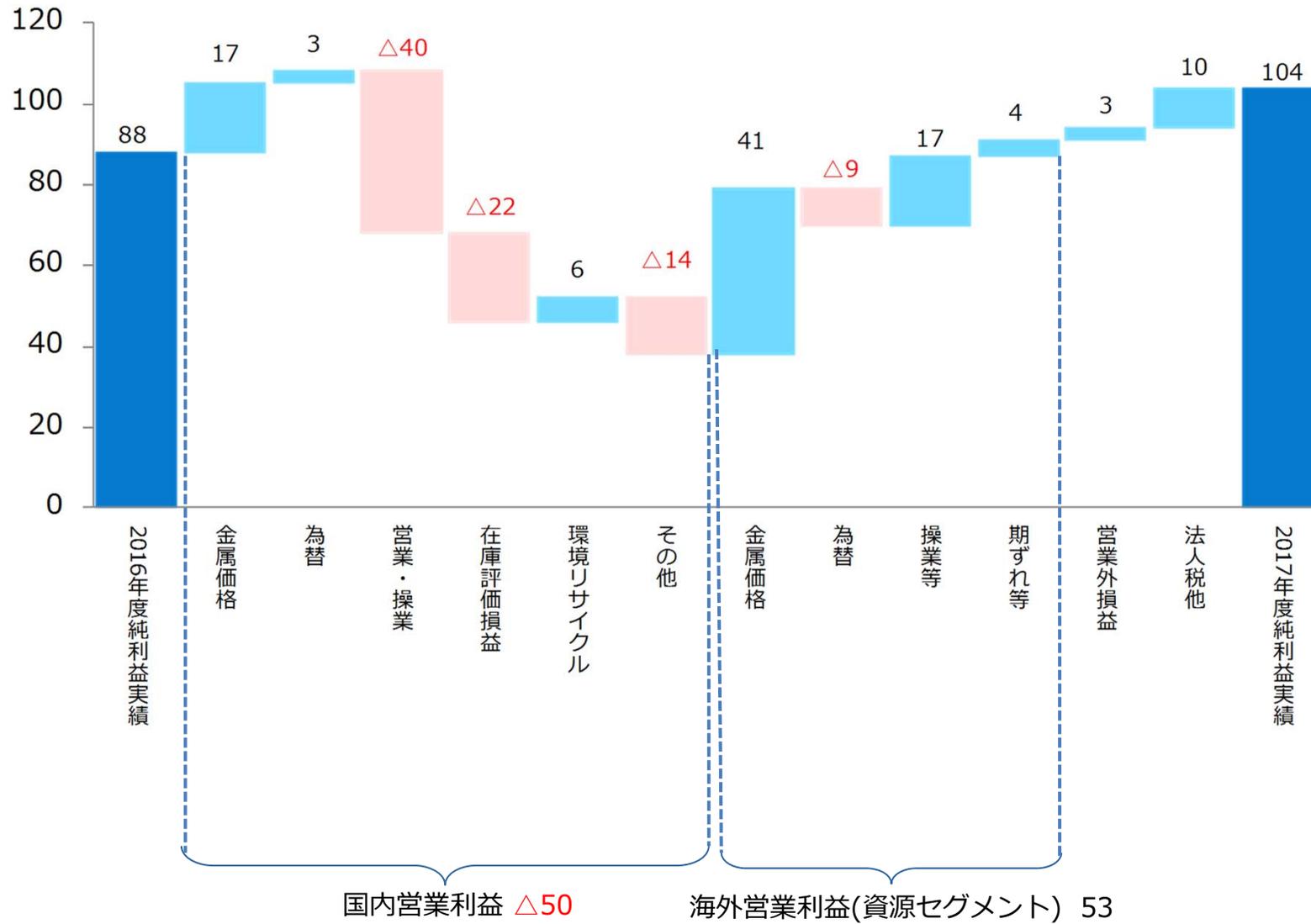
## (7)前期比較(収支)

			2016年度実績	2017年度実績	差(実額)	差(%)
収支	売上高(億円)	製錬	879	957	78	9
		資源	133	257	124	93
		電子部材	59	62	3	5
		環境・リサイクル	45	54	9	20
		その他	106	120	14	13
		調整額	△83	△113	△30	－
		計	1,140	1,336	196	17
	営業利益(億円)	製錬	83.4	33.3	△50.1	△60
		資源	19.9	73.5	53.6	269
		電子部材	6.4	5.6	△0.8	△13
		環境・リサイクル	14.1	20.1	6.0	43
		その他	7.4	8.5	1.1	15
		調整額	△3.5	△9.9	△6.4	－
		計	127.7	131.0	3.3	3
	経常利益(億円)		125.4	131.6	6.2	5
	純利益(億円)		88.1	103.7	15.6	18
	EBITDA(億円)		181.1	189.8	8.7	5

# 1. 収支の状況

(7)前期比較(収支)

単位：億円



# 1. 収支の状況

(8)四半期単位比較(市況・生産量)

2017年度		Q1実	Q2実	Q3実	Q4実	累計	
市況	亜鉛(米\$/t)	2,598	2,962	3,234	3,422	3,054	
	鉛(米\$/t)	2,165	2,334	2,493	2,523	2,379	
	銀(米\$/toz)	17.3	16.8	16.7	16.8	16.9	
	円/米\$	111.1	111.0	113.0	108.3	110.9	
	米\$/豪\$	0.758	0.751	0.789	0.775	0.775	
製錬セグメント 主要製品生産量	亜鉛製品(千t)	26.7	18.2	28.0	27.7	100.7	
	鉛製品(千t)	25.0	25.0	23.8	18.9	92.8	
	電気銀(t)	98	91	84	62	336	
資源セグメント CBH社関連	粗鉱処理量 (千t)	エンデバー	41	120	136	139	437
		ラスプ	163	180	178	182	703
		計	205	300	314	321	1,139
	亜鉛精鉱生産量 (千dmt)	エンデバー	4.1	13.9	14.7	15.1	47.9
		ラスプ	10.7	14.1	14.1	15.4	54.3
		計	14.8	28.0	28.9	30.5	102.2
	鉛精鉱生産量 (千dmt)	エンデバー	2.5	8.6	8.4	7.2	26.7
		ラスプ	5.9	7.1	6.3	6.9	26.2
		計	8.4	15.7	14.7	14.1	52.9

## 1. 収支の状況

### (9)四半期単位比較(収支)

2017年度			Q1実	Q2実	Q3実	Q4実	累計
売上高(億円)			288	351	377	320	1,336
営業利益 (億円)	製錬	在庫評価損益	△1.2	16.2	8.6	△8.0	15.6
		上記以外	0.7	4.1	13.5	△0.6	17.7
		計	△0.5	20.3	22.1	△8.6	33.3
	資源		1.1	26.9	25.1	20.4	73.5
	電子部材		1.7	1.7	1.2	1.0	5.6
	環境・リサイクル		4.5	4.6	5.3	5.7	20.1
	その他		2.1	1.6	1.6	3.2	8.5
	調整		△0.1	△0.5	△3.6	△5.7	△9.9
	計		8.8	54.6	51.7	16.0	131.0
経常利益(億円)			9.5	54.0	51.0	17.0	131.6
純利益(億円)			7.4	40.1	41.7	14.5	103.7

(ご参考)

2016年度			Q1実	Q2実	Q3実	Q4実	累計
売上高(億円)			237	246	319	338	1,140
営業利益(億円)			8.4	18.5	52.8	48.0	127.7
経常利益(億円)			7.1	19.4	49.2	49.7	125.4
純利益(億円)			5.2	14.1	34.9	33.9	88.1

## 2. 財務の状況

### (1)貸借対照表(資産の部)

単位：億円

			2017年3月末 実績	2018年3月末 実績	差(実績)
流動資産	現金・預金		104	138	34
	受取手形・売掛金		205	201	△4
	たな卸資産		381	419	38
	その他		26	28	2
	計		715	786	71
固定資産	有形固定資産		416	409	△7
		内CBH社関係	89	96	7
		(豪\$百万表示)	(106)	(109)	(3)
	無形固定資産		111	125	14
		内CBH社関係	110	124	14
		(豪\$百万表示)	(131)	(141)	(10)
	投資その他		55	58	3
計		582	592	10	
資産 合計		1,297	1,379	82	

## 2. 財務の状況

### (1)貸借対照表(負債・純資産の部)

単位：億円

			2017年3月末 実績	2018年3月末 実績	差(実績)
負債の部	支払手形・買掛金		67	77	10
	有利子負債	CP	30	80	50
		短期借入金	146	115	△31
		長期借入金	362	332	△30
		有利子負債計	538	526	△12
	その他負債		172	151	△21
	計		777	755	△22
純資産の部	株主資本	資本金	146	146	0
		資本剰余金・自己株式	99	98	△1
		利益剰余金	162	252	90
		株主資本計	407	497	90
	その他包括利益累計額		113	127	14
	計		520	624	104
負債・純資産 合計			1,297	1,379	82

## 2. 財務の状況

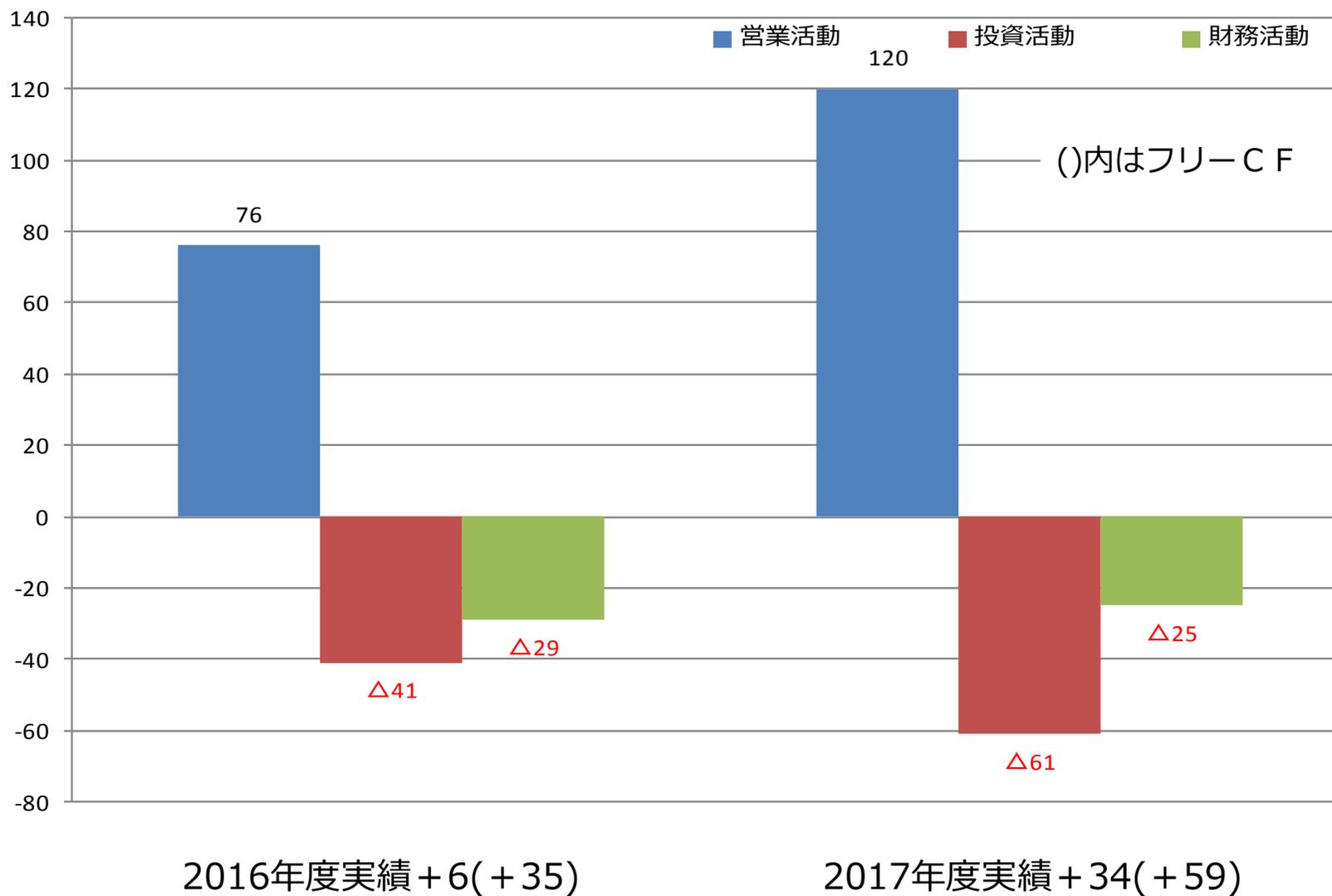
### (2)主要財務指標の変化

	2016年度		2017年度
自己資本比率	40.1%		45.2%
D/Eレシオ	1.0倍		0.8倍
D/EBITDAレシオ (年換算)	3.0倍		2.8倍
純利益/自己資本(ROE) (年換算)	18.3%		18.1%
純利益/売上高	7.7%		7.8%
売上高/総資産	0.9回転		1.0回転
総資産/自己資本	2.7倍		2.4倍

## 2. 財務の状況

単位：億円

### (3) キャッシュ・フローの推移



### 3. 資源セグメントの状況

前期比+53.6億円  
 ⇒内、CBH社営業利益+49.9億円  
 (内、市況等他律要因+32.4億円)

①エンデバー鉱山

前期比+26.8億円(内、市況等他律要因+8.6億円)  
 他律要因を除くと18.2億円の増益⇒計画減産解除による増産効果

②ラスプ鉱山

前期比+22.3億円(内、市況等他律要因+23.8億円)  
 他律要因を除くと△1.5億円の減益→うち、6.6億円は増産による増益影響なるも、鉛・銀粗鉱品位が悪化し単位当たり製造コストが上昇し、他律要因除きで若干の減益に。

③期ずれ等

前期比+3.8億円⇒期ずれに加え、精鉱転売益等の増加含む

利益(億円)		2016年度実績	2017年度実績	差(実額)
CBH社営業利益	エンデバー鉱山	3.8	30.6	26.8
	ラスプ鉱山	12.0	34.2	22.3
	その他	0.5	1.4	0.8
	計	16.3	66.2	49.9
期ずれ等		3.5	7.3	3.8
資源セグメント利益		19.9	73.5	53.6

## II. 2018年度 連結業績予想（第11次中期3カ年計画の初年度）

### 1. 2017年度比較

(1)2017年度比較（市況・販売・生産量）

			2017年度実績	2018年度前提	差(実額)	差(%)
市況	亜鉛(米\$/t)		3,054	3,200	146	5
	鉛(米\$/t)		2,379	2,400	21	1
	銀(米\$/toz)		16.9	17.0	0.1	1
	円/米\$		110.9	105.0	△5.9	△5
	米\$/豪\$(1-12月)		0.775	0.780	0.005	1
製錬セグメント 主要製品生産量	亜鉛製品(千t)		100.7	114.5	13.9	14
	鉛製品(千t)		92.8	93.0	0.2	0
	電気銀(t)		336	320	△16	△5
資源セグメント CBH社関連(1-12月)	粗鉱処理量 (千t)	エンデバー	437	697	260	59
		ラスプ	703	722	19	3
		計	1,139	1,419	280	25
	亜鉛精鉱生産量 (千dmt)	エンデバー	47.9	60.5	12.6	26
		ラスプ	54.3	62.6	8.3	15
		計	102.2	123.1	20.9	20
	鉛精鉱生産量 (千dmt)	エンデバー	26.7	28.9	2.2	8
		ラスプ	26.2	30.9	4.7	18
		計	52.9	59.8	6.9	13

## 1. 2017年度比較

### (1) 2017年度比較(収支)

		2017年度実績	2018年度計画	差(実額)	差(%)
売上高(億円)		1,336	1,370.0	34	3
営業利益(億円)	製錬*	33.3	10.0	△23.3	△70
	資源	73.5	81.0	7.5	10
	電子部材	5.6	6.0	0.4	7
	環境・リサイクル	20.1	20.0	△0.1	△1
	その他	8.5	5.0	△3.5	△41
	調整額	△9.9	△12.0	△2.1	—
	計	131.0	110.0	△21.0	△16
経常利益(億円)		131.6	108.0	△23.6	△18
純利益(億円)		103.7	93.0	△10.7	△10
EBITDA(億円)		189.8	173.0	△16.8	△9

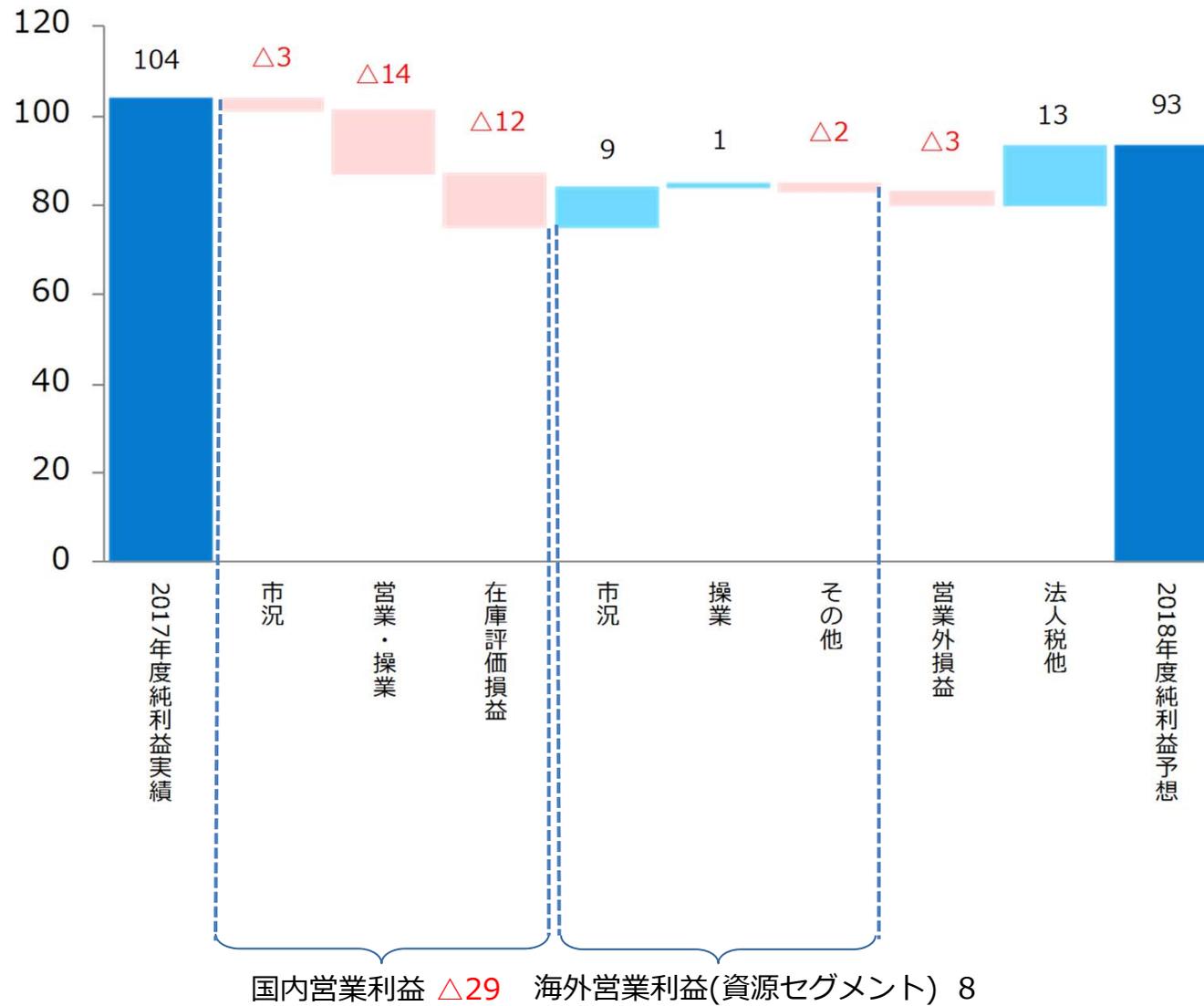
\* : 内、在庫評価損益

{	2017年度実績	15.6億円
	2018年度計画	3.9億円

# 1. 2017年度比較

(1)2017年度比較(収支)

単位：億円



## 2. 上期・下期比較

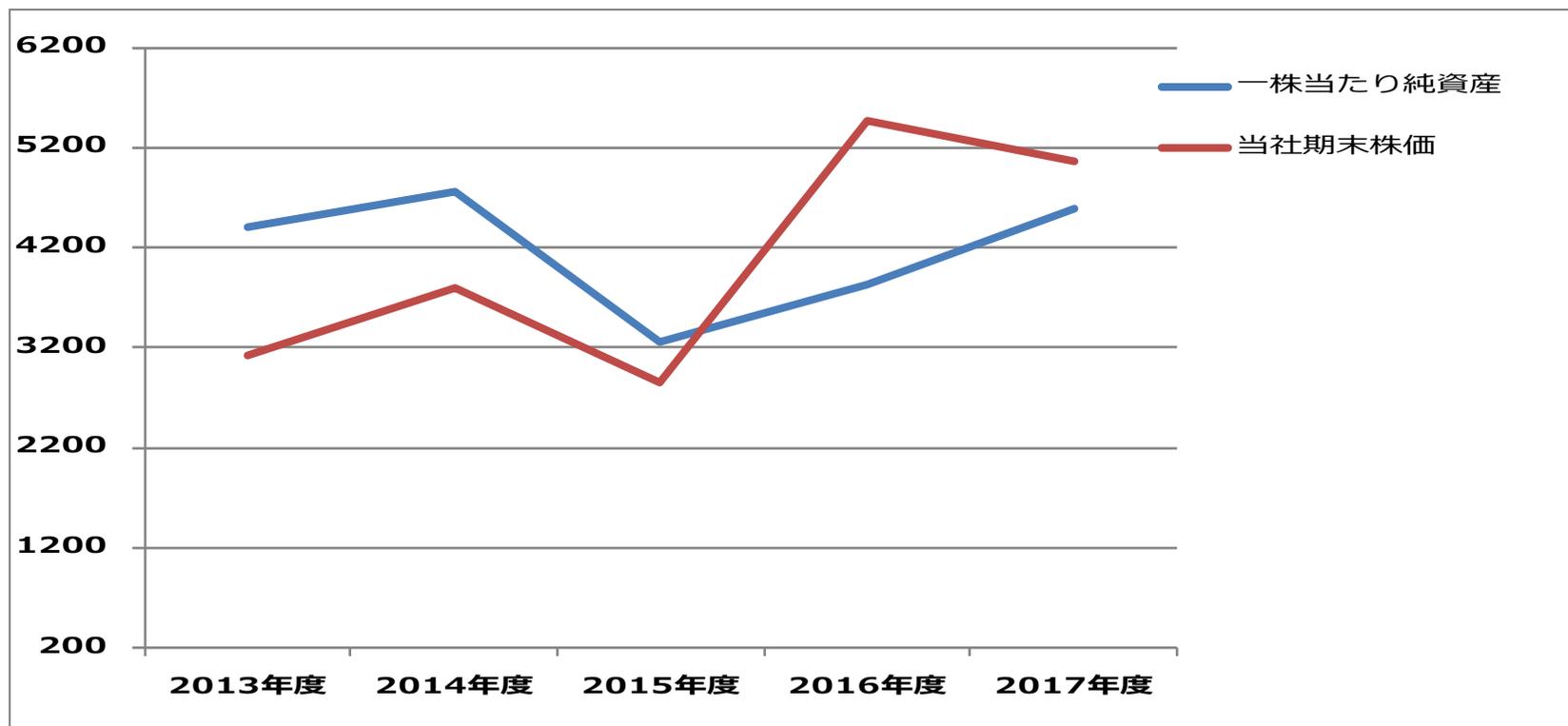
### (1) 上期・下期比較(収支)

		2018年度上期計画	2018年度下期計画	差(実額)	差(%)
売上高(億円)		660	710	50	8
営業利益(億円)	製錬*	3.0	7.0	4.0	133
	資源	25.0	56.0	31.0	124
	電子部材	3.0	3.0	0.0	0
	環境・リサイクル	11.0	9.0	△2.0	△18
	その他	2.0	3.0	1.0	50
	調整額	△7.0	△5.0	2.0	—
	計	37.0	73.0	36.0	97
経常利益(億円)		36.0	72.0	36.0	100
純利益(億円)		29.0	64.0	35.0	121
EBITDA(億円)		68.5	104.5	36.0	53

\* : 内、在庫評価損益

{	上期	2.9億円計画
	下期	1.0億円計画

### 3. 一株当たり情報



	2013年度 実績	2014年度 実績	2015年度 実績	2016年度 実績	※2017年度 実績	※2018年度 予想
EPS (円)	12.30	20.20	△119.45	64.91	763.94	684.87
DPS (円)	5	7	5	10	125	125
PER (倍)	25.45	18.76	△2.39	8.41	6.62	-
PBR (倍)	0.71	0.80	0.88	1.43	1.10	-

※  
2017/10に10株⇒1株の株式併合を実施しました。EPS・DPSについては、2016年度までは併合前、2017年度以降は併合後となっております。なお、上段の一株当たり純資産と株価のグラフについては、比較可能性を考慮して、2016年度以前についても併合の影響を考慮して作成しております。

## 4.感応度

	変動幅	2017年度試算		2018年度試算		増減	
		連結営業利益影響額	*内CBH	連結営業利益影響額	*内CBH	連結営業利益影響額	内CBH
亜鉛	\$10/t	¥67百万	¥46百万 (豪\$560千)	¥50百万	¥34百万 (豪\$410千)	△¥17百万	△¥12百万 (△豪\$150千)
鉛	\$10/t	¥37百万	¥31百万 (豪\$370千)	¥28百万	¥23百万 (豪\$280千)	△¥9百万	△¥8百万 (△豪\$90千)
円/米\$	1円/米\$	¥80百万	-	¥64百万	-	△¥16百万	-
米\$/豪\$	1%	豪\$2.9百万	同左	豪\$3.7百万	同左	豪\$0.8百万	同左

\* 円換算は82.0円/豪\$を使用

尚、CBH社を連結する際に円/豪ドルレートを使用して円換算を行う。したがって、CBH社の豪ドル建損益水準は、連結段階では、最終的に円/豪ドルレートにより決定される。

年内精亜鉛生産量の1/3につきキャップとフロアーを固定したオプションを契約しており、市況感応度はキャップ-フロアー内の市況を前提としたもの。

## 5.主要製品の用途

### 主 な 用 途

亜鉛	亜鉛メッキ鋼板、一般メッキ、ダイカスト、伸銅品
鉛	バッテリー、電線、無機薬品、鉛管板
銀	フィルム、はんだ、メッキ
酸化亜鉛	ゴム（タイヤ）、フェライト、触媒
硫酸	化学肥料、合成繊維、化学工業薬品、石油精製
電子部品	産業機器、OA機器、車載電装品、パソコン
電子材料 《プレーティング》 《電解鉄》	接点およびコネクタ （携帯電話、デジタル機器、車載電装品） 特殊合金、超耐熱鋼、磁性材料、触媒

## 6.主要製品の売上の推移(連結)

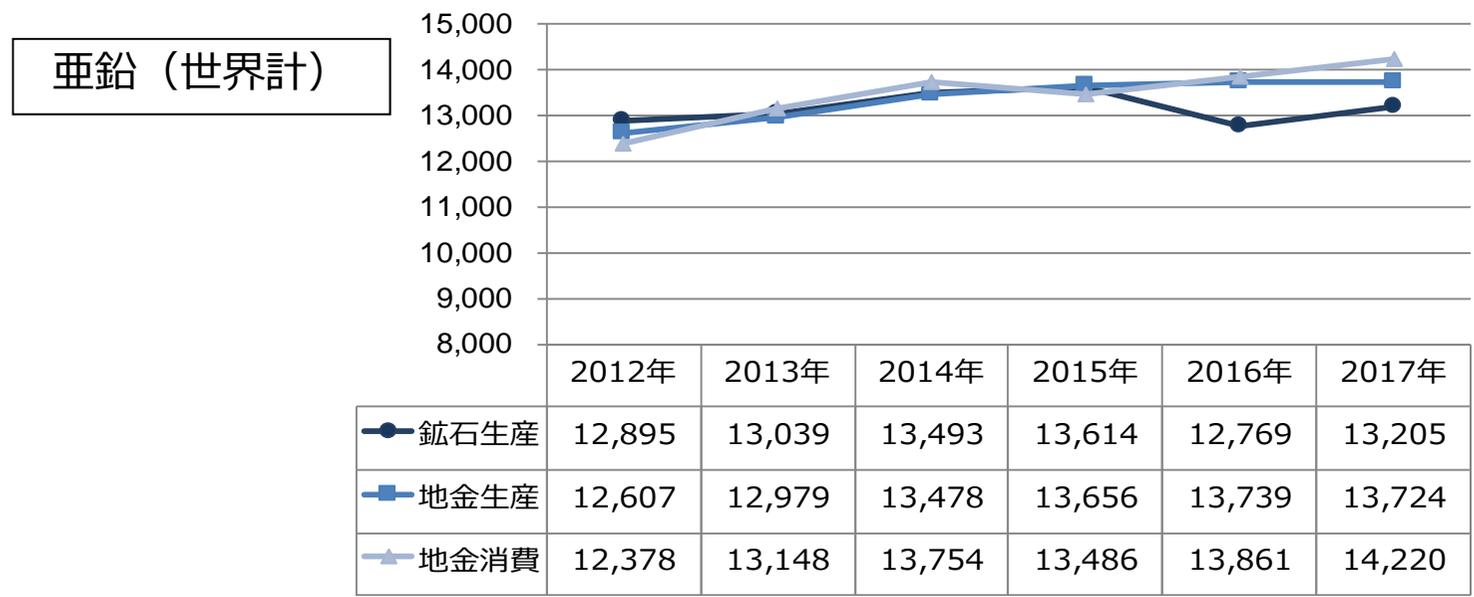
上段：数量(t) 下段：金額(百万円)

	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度
亜鉛製品	107,578	115,149	99,303	91,897	103,180	104,519
	20,366	25,478	27,209	23,653	30,100	38,813
鉛製品	87,884	90,833	86,600	92,384	104,896	93,005
	18,367	22,942	22,656	23,071	26,749	27,960
電気銀	353	363	401	414	424	353
	29,053	25,064	25,682	24,635	25,934	21,412
硫酸	1,689	1,637	1,537	1,451	1,358	1,434
鋳石販売等	11,034	14,085	18,853	18,154	9,128	20,174
電子部品	2,706	2,818	3,096	2,740	2,430	2,387
電子材料等	3,890	4,113	3,995	3,415	3,458	3,806
環境・ リサイクル製品	4,350	4,921	5,978	4,638	4,528	5,386
防音建材	1,924	2,253	1,934	1,738	1,462	1,657
完成工事高	2,619	3,324	2,427	3,224	3,732	3,592
その他	7,650	11,978	7,721	7,420	5,069	7,005
合計	103,654	118,619	121,093	114,144	113,952	133,625

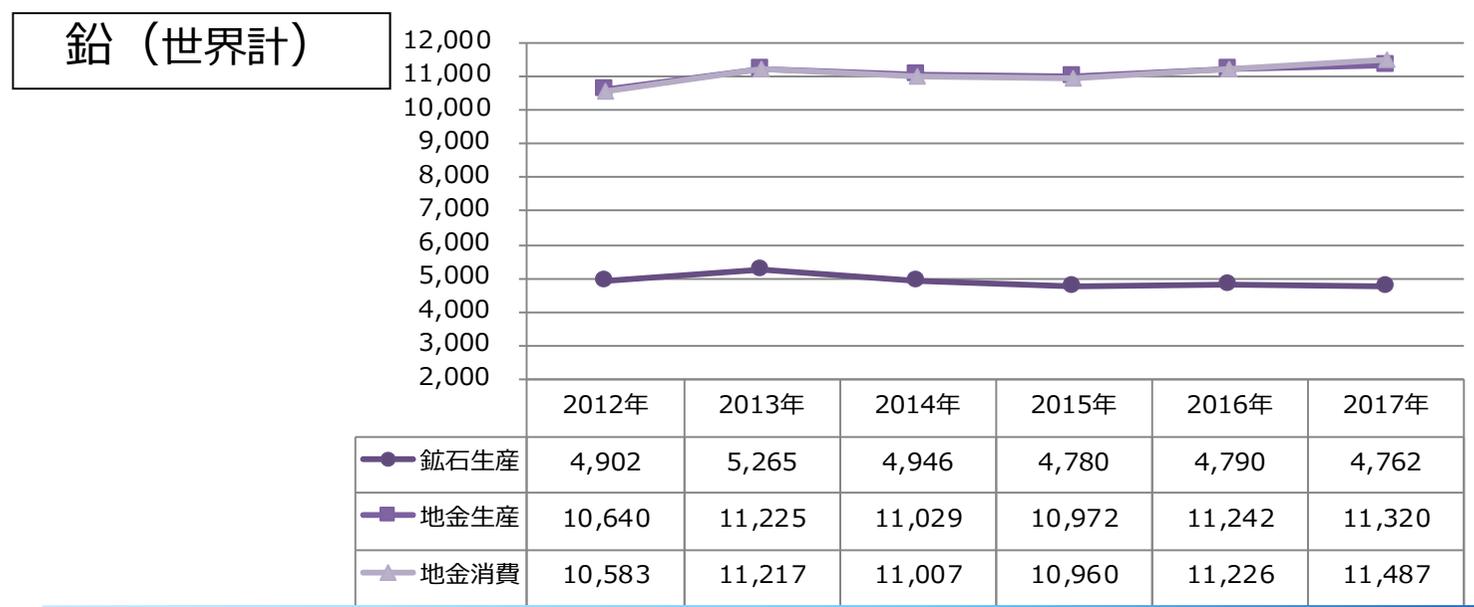
(参考資料)

# 1.世界の亜鉛・鉛の需給推移

出典：日本鋳業協会



単位：千t



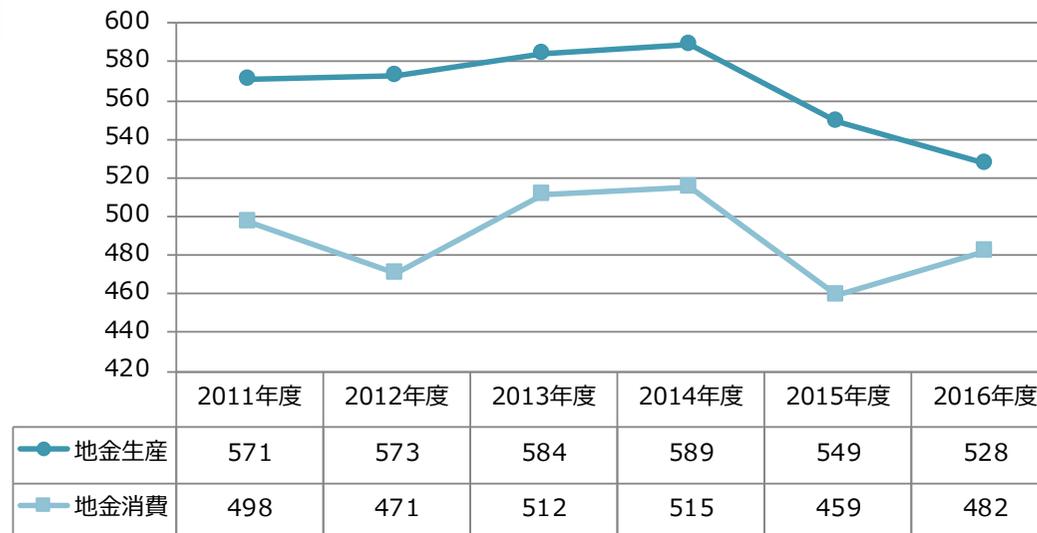
単位：千t

## 2.国内の亜鉛・鉛の需給推移

出典：経済産業省資源エネルギー庁

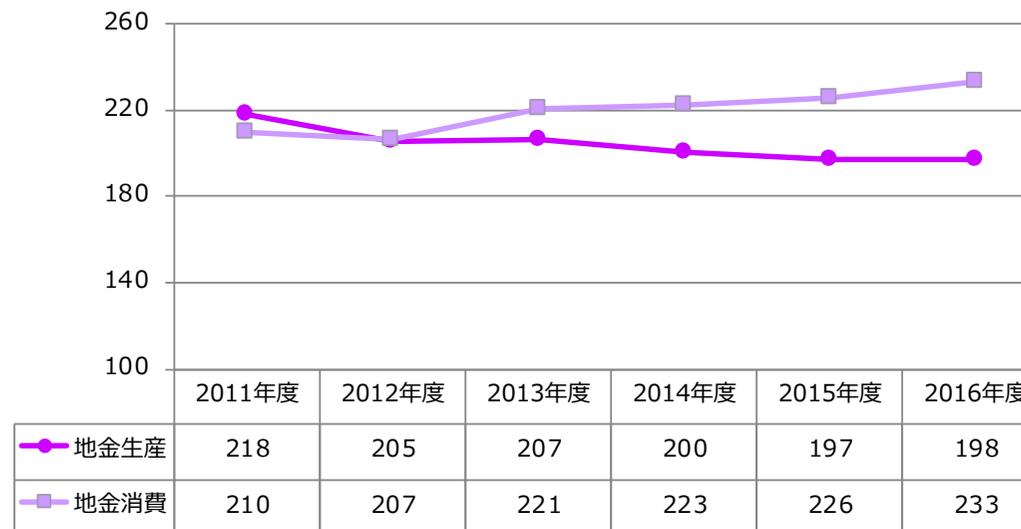
### 亜鉛（国内計）

単位:千t

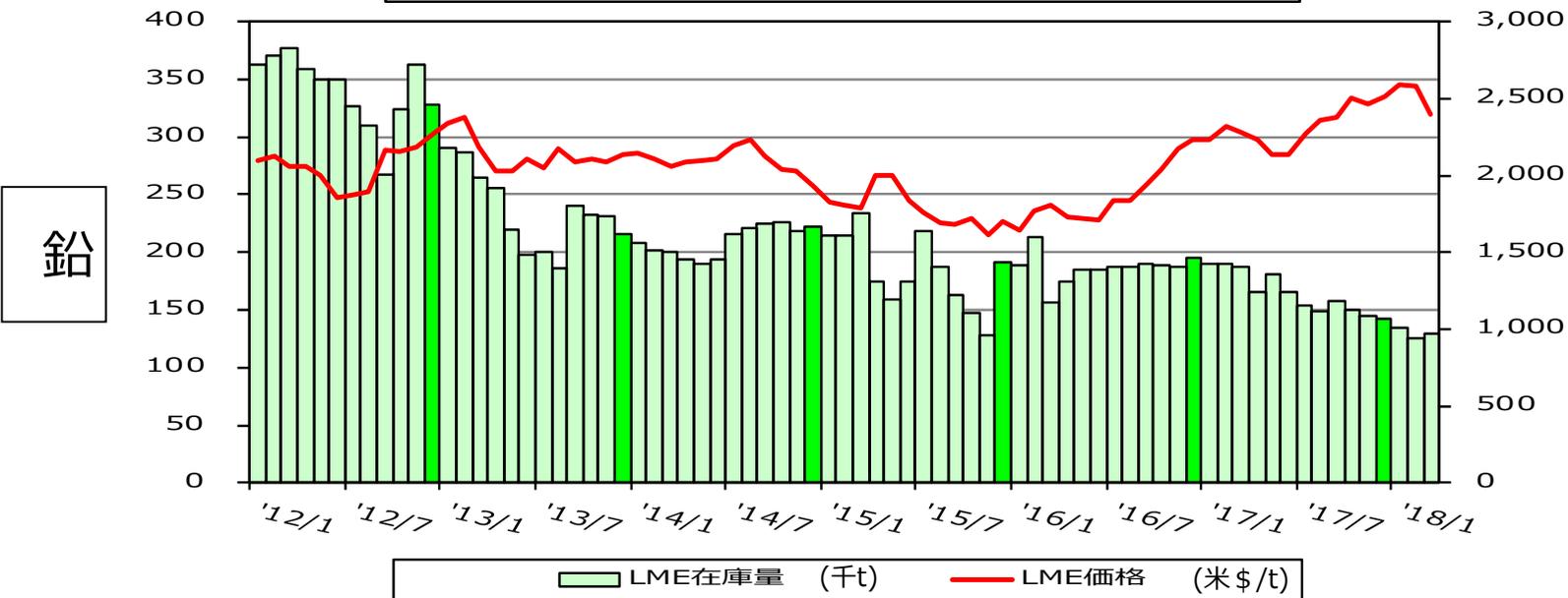
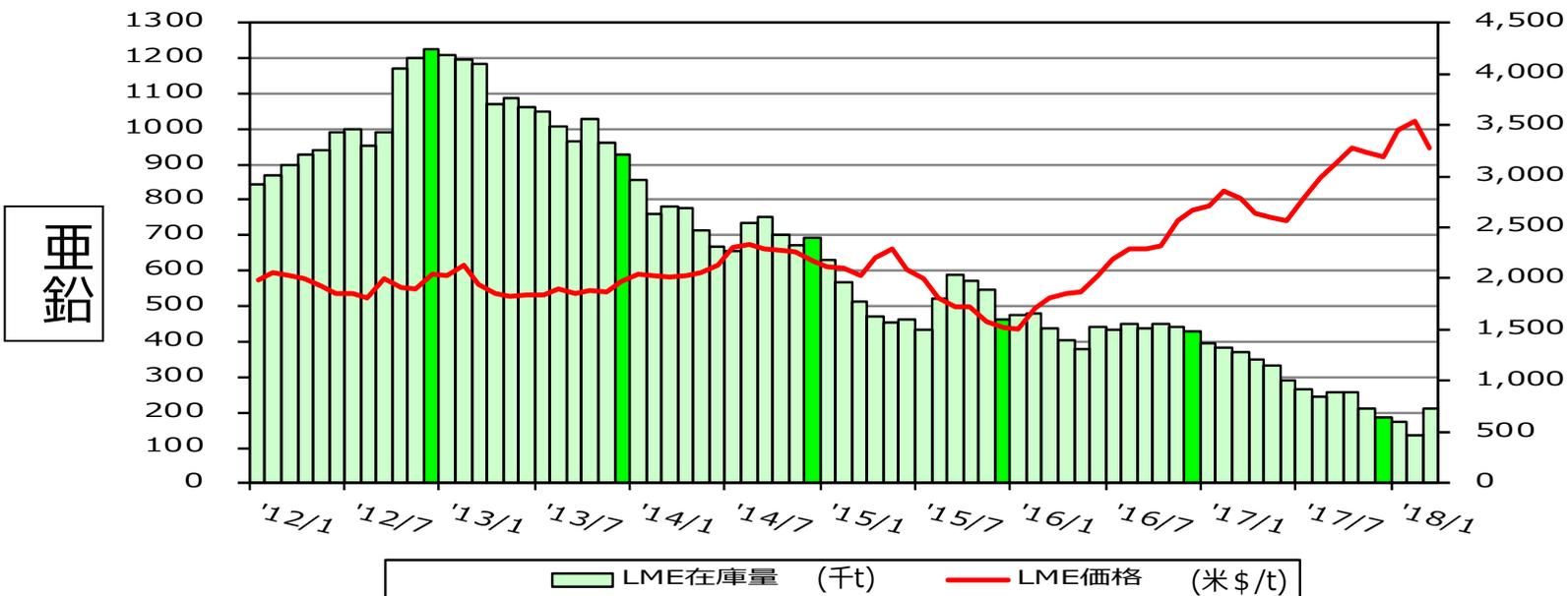


### 鉛（国内計）

単位:千t



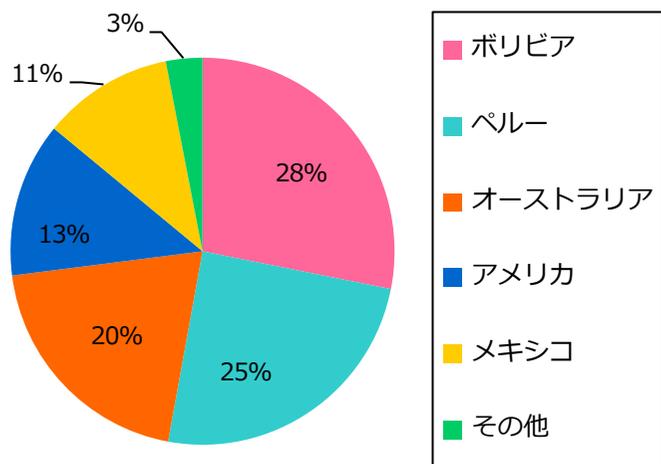
### 3.メタルの価格と在庫の推移



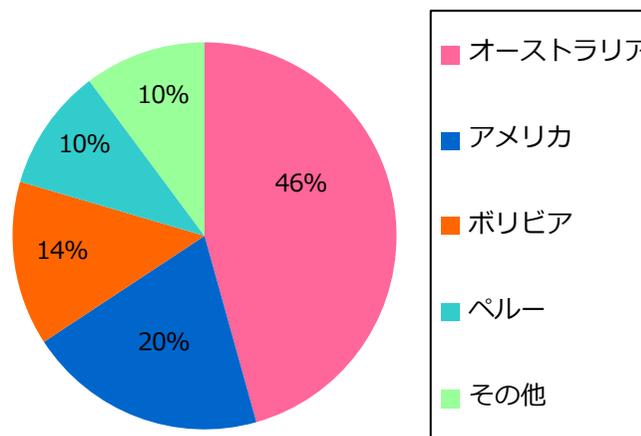
## 4.亜鉛・鉛の鉱石輸入と国内需要

出典：経済産業省資源エネルギー庁

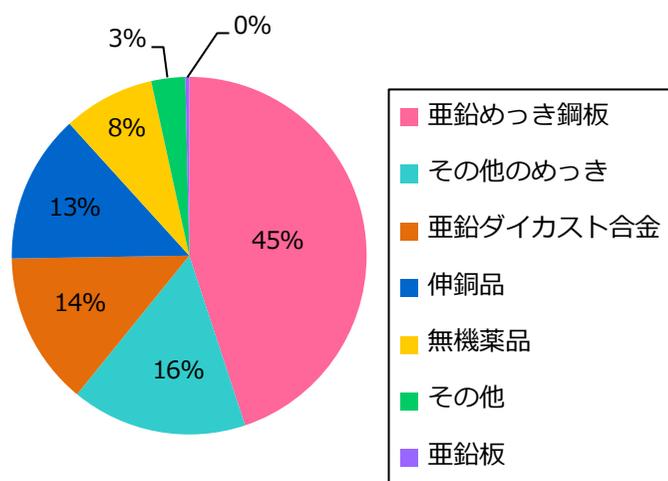
日本の亜鉛鉱石の輸入国



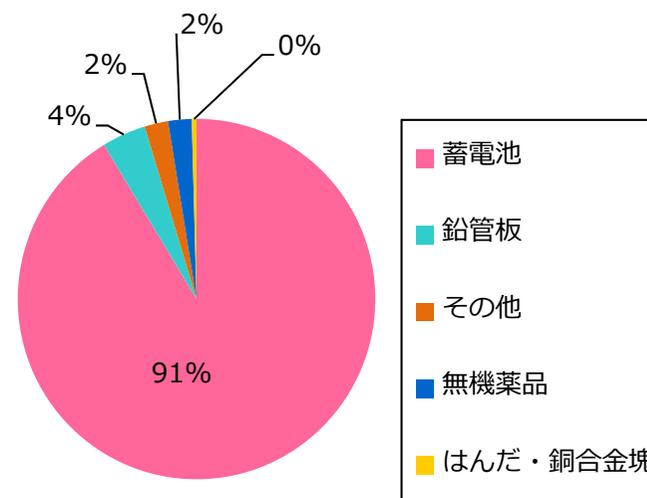
日本の鉛鉱石の輸入国



亜鉛の国内需要



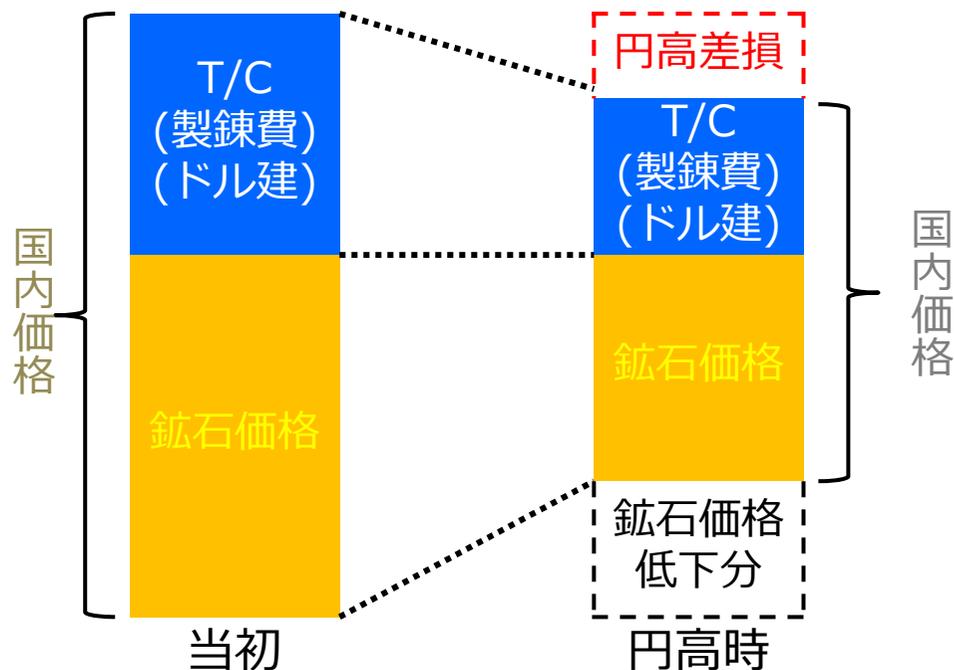
鉛の国内需要



## 5. 製錬事業の収益構造

### 主な収益要因

- (1) LME（ロンドン金属取引所）
- (2) 為替レート
- (3) T/C（Treatment Charge）  
（製錬費）
- (4) 採収差量



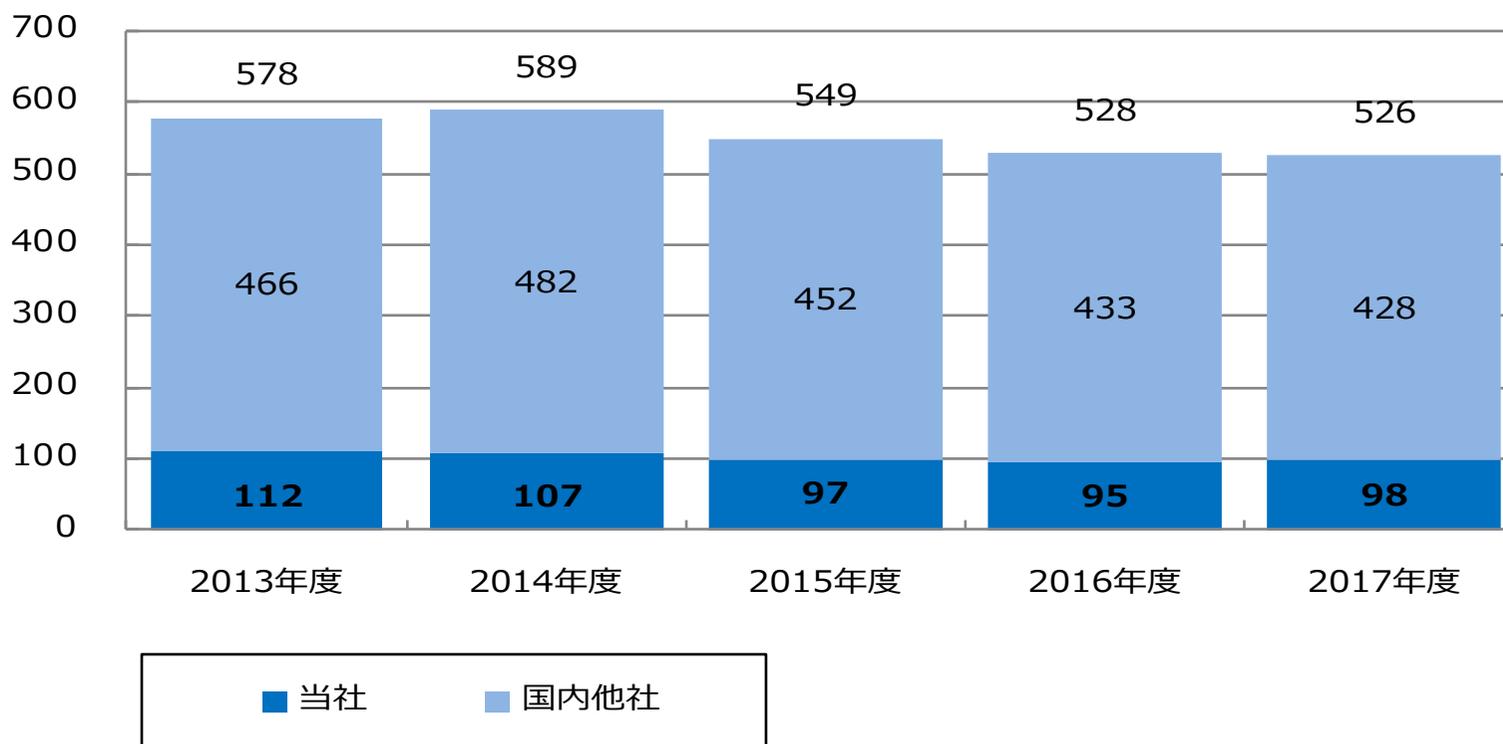
- 国内価格はLME価格（ドル建）に連動しているため、円高になるとその分地金価格は下落し、売上高が減少する。
- 海外鉱山会社との買鉱交渉による当社の取り分であるドル建て製錬費（T/C）は、買鉱条件悪化や円高で製錬側の手取りが減少する。

## 6.製錬業界における当社の位置

### (1)亜鉛

出典：経済産業省資源エネルギー庁

亜鉛国内生産量（千t）



## 6.製錬業界における当社の位置

### (2)鉛

出典：経済産業省資源エネルギー庁

鉛国内生産量（千t）

